

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03651

研究課題名（和文）高齢者における健康の社会階層による格差のメカニズムとその制御

研究課題名（英文）mechanisms and regulation of socioeconomic disparities in health among the elderly

研究代表者

杉澤 秀博（Sugisawa, Hidehiro）

桜美林大学・大学院 国際学術研究科・教授

研究者番号：60201571

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 23,760,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、高齢者における健康の階層格差のメカニズムとその制御要因を解明した。分析の結果、心理社会的要因の媒介効果、親の階層、本人の学歴、職業、収入、それぞれの直接効果とともにその経路効果、健康の階層格差におけるコホート効果、住宅階層指標の学歴・収入による階層指標とは異なる独自性、慢性疾患罹患者における症状増悪における社会階層の影響、サービス提供者の貧困高齢者に対する対応の困難、を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会階層による健康格差については、日本では高齢者を対象とした研究が少ない。さらに、社会階層の健康影響に関する研究を進展させていくには、その存在の記述だけでなく、以下のような課題を設定し、解明する必要がある。社会階層が高齢者の健康に与える影響のメカニズム、高齢者において特に重要な視点となるライフコース上における社会階層の影響、社会階層の健康影響のコホートによる差、高齢期に多く罹患する慢性疾患罹患後の予後に対する社会階層の影響、高齢貧困者に対する医療福祉従事者の認識と対応。しかし、以上の課題の解明は、欧米においても少ない。本研究では、課題を取り上げ解明を試みた。

研究成果の概要（英文）：This study elucidated the mechanisms of health disparities by socioeconomic status (SES) in older adults. As a result of the analyses, the following points were clarified. (1) the mediational influences of psychosocial factors, (2) the direct effects and pathway effects of parental SES, and older adult's educational attainments, occupation, and income, (3) birth cohort differences in influences of SES on health, (4) uniqueness of housing status different from educational attainment and income, (5) the influences of SES on worse of symptoms in patients with chronic diseases, and (6) the difficulty of service providers in dealing with the poor older adults.

研究分野：老年社会学

キーワード：社会経済階層 ライフコース 高齢者 健康 メカニズム 医療福祉従事者 コホート効果

## 1. 研究開始当初の背景

1) 高齢者における健康の社会階層格差に関する研究の開始：日本では社会階層による健康格差に関する研究は、欧米と比較して遅れているものの、2000年以降本格的に取り組みられるようになった。2009年には科研費の新学術領域研究で「社会階層と健康」が取り上げられ、それによって中年期および職域における健康の階層格差の研究が推進されてきた。最近では、愛知老年学評価研究（AGES）によって高齢者を対象とした研究の蓄積も図られている。これまでの知見を総括するならば、高齢者においても健康や不健康要因の分布に社会階層（ライフコース上の社会階層も含む）による格差が存在することは定まったとみることができる。2) 高齢者における健康の社会階層格差研究の到達点：(1) 社会階層の健康や不健康要因への影響：欧米だけでなく日本でも、横断調査およびパネル調査によって低階層（低学歴、低収入）の高齢者に不健康や不健康要因が集積していることが確認されている。(2) 年齢、時代、コホート効果に関する研究：社会階層の健康に与える影響が年齢や時代、コホートによって異なるか否かについて、米国を中心に検証が行われてきている。日本においても、申請者らが高齢者や腎透析患者を対象とした繰り返し横断調査データを用いて、年齢効果（80歳を前後して社会階層の健康格差が逆転すること）、時代効果（マクロ経済の変動が社会階層による健康格差に関係していること）があることが明らかにされている。(3) 高齢者の健康に対するライフコース上の社会階層の影響：高齢者の健康に対するライフコース上の階層の影響について、欧米のみでなく日本においても研究が進められている。影響に関するモデルとして、潜在効果、蓄積効果、社会移動効果、経路効果が示されているが、日本では、潜在効果モデルを用いて幼少期の社会階層が高齢期に健康に影響していること、申請者らは蓄積効果モデル、社会移動効果モデルも高齢期の健康の格差の説明モデルとして有効であることを明らかにしている。(4) 健康・不健康要因の社会階層格差のメカニズムとその制御要因：欧米では社会階層と健康・不健康要因を媒介する要因として、社会関係、自己効力感などの社会・心理的要因に着目した研究が行われている。日本においても、媒介要因の解明が始められており、高齢者を対象に食習慣や運動習慣の社会階層格差に対して心理的要因が有意な媒介効果をもっていることが申請者らによって明らかにされている。(5) 医療福祉ニーズへの対応における階層差：欧米では、疾患をもった高齢者や日常生活に支障をもつ高齢者とその介護者を対象に、医療福祉サービスの充足度が社会階層によって影響されていることが明らかにされている。本研究では、欧米と日本における既存研究の到達点を踏まえ、それらの知見をさらに深めるために、以下のような課題を設定した。

## 2. 研究の目的

本研究では、高齢者における健康の社会階層格差のメカニズムとその制御要因の解明を目的として、以下5つの課題にアプローチした。1) 社会階層の健康影響のメカニズムと制御要因を解明する。2) 社会階層指標間の関係をモデル化した指標を用いて健康への影響を解明する。3) 住宅階層指標の健康影響を解明する。4) 高齢就業者の社会階層の健康影響を解明する。5) 健康問題発生後の医療福祉ニーズへの対応（腎透析患者のセルフケア・健康度、居宅介護支援員の困難事例の出現）における社会階層格差と制御要因を解明する。

## 3. 研究の方法

目的1)については、①平成27年度に東京都内の2自治体（世田谷区と墨田区）の65歳以上住民各1,000人ずつを対象とした調査データを継続して分析した。②この調査完了者を対象としたパネル調査を実施し、そのパネル調査のデータを分析した。パネル調査は新型コロナの感染流行のため、実施予定を延期し、令和3年度に実施した。対象者は初回調査の完了者である761人であり、完了者は353人であった。回収率は46.4%であった。調査不能理由は、本人と家族による拒否が40.4%、死亡が17.4%であった。①の調査回答者のうち、「残存歯が20本以上」及び「学歴が中学卒業」の7名を対象とした半構造化面接を実施し、そのデータを分析した。

目的2)については、日本版総合的社会調査（JGSS）の平成12年、平成13年、平成14年、平成15年、平成16年、平成18年、平成20年、平成22年、平成27年、平成30年のデータの二次分析を行った。

目的3)については、平成27年度に東京都内の2自治体（世田谷区と墨田区）の65歳以上住民各1,000人ずつを対象に実施した調査データを継続して分析した。

目的4)については、①平成28年度に全国55歳から64歳の男性2,500人を対象に実施した調査データと平成11年に全国55～64歳の男性4,000人を対象に実施した調査データを継続して分析した。②この調査完了者を対象としたパネル調査を実施し、そのパネル調査のデータを分析した。パネル調査は新型コロナの感染流行のため、実施予定を延期し、令和3年度に実施した。パネル調査は初回調査の完了者である919人であり、完了者は583人、回収率は63.4%であった。調査不能理由は「調査拒否」が64.9%を占めていた。

目的5)については、①東京都23区において、高齢者の社会経済的な水準が上位6区と下位6区を選択し、選択された区の居宅介護支援事業所1,170に対して所属する居宅介護支援専門員を対象とした調査への協力依頼を行った。計182の事業所が調査を承諾した。調査を承諾した事

業所に属する全居宅介護支援専門員(457人)を対象に調査を行った結果、調査票の回収数は397であった。②加えて、①の調査に回答した人のうち、経済的な問題があるケースを担当したことがあり、「常勤専従」「経験年数10年以上」の居宅介護支援専門員17名を対象として半構造化面接を実施した。③日本透析医会に属する医師が勤務する透析医療機関に通院する透析患者を対象に、平成28年と令和3年に実施した調査データを分析した。④東京都健康長寿医療センター研究所と米国ミシガン大学が共同で行っている「長寿社会における中高年の暮らし方の調査」のデータを分析した。

#### 4. 研究成果

##### 1) 社会階層の健康影響のメカニズムと制御要因：

(1) 高齢者の運動参加における社会経済的地位(就学年数と収入)による差異を最も効果的に説明できる媒介要因を明らかにした。媒介要因の候補として、社会生態学モデルに基づき、健康、心理、社会、環境の各要因を取り上げた。分析の結果、教育と収入の影響は自己効力感と社会的支援によって媒介されていた。社会的支援については教育よりも収入の影響をより強く媒介していた。

(2) 高齢者の保健行動の社会経済的地位(就学年数と収入)による差異の心理的なメカニズムとして時間的な見通し(time perspective)が関係している否かを検証した。時間的な見通しは5つの下位の次元で測定した。保健行動は運動、食習慣、禁煙によって測定した。分析の結果、時間的な見通しの下位次元のスケールのいずれも保健行動の媒介要因として有意に影響していなかった。

(3) 高齢者の社会経済的地位(就学年数と収入)と口腔健康との関連を媒介する心理・社会的要因を解明した。媒介分析の結果、心理社会的要因(自尊感情、うつ症状、社会的支援)のうち個別の要因については有意な媒介効果を確認できなかったものの、心理社会的要因全体では年収と口腔健康の媒介要因として有意な効果がみられた。

(4) 口腔健康感及び咀嚼能力の変化に関連する心理社会的要因を分析した。要因には、社会経済的地位(就学年数、収入)、心理社会的指標(自己統制感、自尊感情、うつ症状、社会的支援)を取り上げた。分析の結果、①口腔の健康感を維持する人は約半数(49.3%)、悪化した人は30.3%、良くなった人は20.4%いること。②うつ症状が口腔健康感の悪化に与影響していた。

(5) 教育年数が少なく学校における健康教育の経験が限られたなかで口腔健康を維持する人を対象に、成人期以降の口腔保健行動の獲得・定着プロセスを明らかにした。健康教育経験が少ないという社会的不利の中で口腔健康を維持している高齢者は、「歯の健康に対する自信」という共通する認識をもち、歯科医院への通院と口腔清掃、さらには独自の「健康のために信じる方法」で口腔保健行動を獲得していた。成人期に入ると、大部分が一時的に仕事に専念せざるを得ず、口腔保健行動から距離を置く時期があったが、その間も積極的な独自の口腔保健行動の継続を行っていた。

(6) ライフコース上の経済的困窮と高齢期における経済的困窮それぞれの高齢期における健康への影響のメカニズムを解明した。媒介要因には、ライフコース上と高齢期におけるライフイベント、社会心理的要因を設定し、健康指標には、疾病罹患数、日常生活動作、うつ症状、健康度自己評価を用いた。コントロール感がライフコース上と高齢期の経済的困窮のいずれについても日常生活動作の障害に与える影響を媒介していた。自尊感情がライフコース上と高齢期の経済的困窮のいずれについてもうつ症状と健康度自己評価に与える影響を媒介していた。

(7) 単独世帯の高齢者、中でも男性の場合、他の世帯類型に属する人と比較して精神健康が低いという結果が示されているが、そのメカニズムは未解明である。本研究では、単独世帯と精神健康の関連を身体健康、収入、インフォーマルネットワーク、社会的支援が媒介するか否かを分析した。男性・女性に共通して、収入が低いことが精神健康を低くしている媒介要因であること、加えて、男性についてのみ社会的支援が低いことも媒介要因であった。

##### 2) 社会階層指標間の関係をモデル化した指標を用いて健康への影響を解明：

ライフコース上の社会経済的地位が高齢期の健康に及ぼす影響がコホート間で異なるかどうかを潜在効果、経路効果、社会移動効果、蓄積効果の各モデルに基づき分析した。コホートは1940年以前(第二次世界大戦前の教育制度)、1940年代(第二次世界大戦後の教育制度)、1950年代(高度経済成長期)の3コホートを設定した。経路効果モデルに基づく影響は3コホートすべて有意であった。社会移動効果と蓄積効果のモデルに基づく影響は1940年以前と1940年代のコホートでのみ有意であった。

##### 3) 住宅階層指標の健康影響

住宅階層の指標が、①就学年数と収入という他の階層指標の代替指標なのか、それとも独自の影響をもつ指標なのか、②独自に影響する指標の場合、独自の影響が住宅の物理的・社会的環境によって説明できるか否かを分析した。住宅階層の指標については持ち家か否かで評価し、健康指標については、疾患罹患数、日常生活動作、うつ症状、健康度自己評価で評価した。①については、疾患罹患数、うつ症状、健康度自己評価については、就学年数、収入の影響を調整しても住宅階層の指標が独自の影響をもっており、就学年数と収入の代替指標でないこと、②については、うつ症状に対する独自の影響は、物理的・社会的環境によって説明できたものの、疾患罹患

数と健康度自己評価については、その独自の影響が物理的・社会的環境によって説明できなかった。

#### 4) 高齢就業者の社会階層と健康

(1) 60～64歳の男性を対象に、1999年（65歳までの雇用保障の義務化前）と2016年（義務化後）で職業満足度の雇用形態（正規職・非正規職・自営）による格差とその要因を解明した。分析の結果、①「正規」の就業者と比較して「非正規」の就業者の職業満足度は2016年でのみ有意に低かった。②「非正規」の就業者で2016年の職業満足度が有意に低かったのは、「自由裁量のなさ」が媒介していた。

(2) 2000年の高齢者雇用安定法の改正により、企業は就労者の65歳までの雇用が義務付けされた。研究では、高齢就業者の年齢差別の経験とその個人的・組織的要因を分析するとともに高齢者雇用安定法の前（1999年）と後（2016年）でどのように異なるかを分析した。ステレオタイプコンテンツモデルに基づき、個人的要因については「身体的な負荷の大きい仕事」「コンピュータでの作業が必要な仕事」「低学歴」「病気による欠勤」を、企業側の要因については「事業形態（公営・民間）」「企業規模」「人員整理の規模」「高齢者用の施策の実行数」を設定した。「身体的負荷の大きい仕事」「病気による欠勤」という個人要因、「事業形態」「人員整理の規模」という企業要因が年齢差別の経験に影響していた。加えて、「コンピュータでの作業が必要な仕事」が1999年でのみ、「低学歴」については1999年では年齢差別を強めることに、2016年では年齢差別を弱めるように貢献していた。

(3) 職場における年齢差別（エイジズム）が仕事満足度に及ぼす直接効果および年齢差別のネガティブな影響を軽減する心理社会的資源の緩衝効果について検証した。分析の結果、①職場における年齢差別の認知は、仕事満足度の低さと関連していた。②上司や同僚からの社会的サポートは、年齢差別が仕事満足度に及ぼすマイナスの影響を緩衝していた。

#### 5) 健康問題発生後の医療福祉ニーズへの対応：

(1) 経済的困難を抱える介護保険の認定者に対して、居宅介護支援専門員が認識する援助の困難と援助後の予後に影響する要因を分析した。経済的困難事例の複雑さが援助の困難度の増加とともに介入後の予後不良にも影響していた。居宅介護支援専門員が受領する社会的サポートはいずれの指標にも有意に影響していなかった。地域高齢者の社会経済階層の分布の地域差も介入後の予後不良に影響しており、その影響は居宅介護支援専門員が担当する経済的困窮者のケース数によって媒介されていた。

(2) 経済的困難者に対する支援過程が、居宅介護支援専門員の経済的困難者に対する援助観に影響する要因を明らかにした。介護支援専門員は、援助経験の中で職業経験の浅い時期の実践を＜複雑な人間模様と直面＞＜制約の多い関わり＞の中で、＜自分本位の支援＞と認識することになった。その後の経験の中で＜試行錯誤の積み重ね＞＜多角的な視点を獲得＞ことで＜意思決定尊重を徹底する＞に至り、＜早急な解決を求めない＞＜生活困窮者に歩調を合わせる＞支援を実践し、現在は＜生活困窮に積極的に向き合う＞意識に至った。

(3) 居宅介護支援専門員における貧困原因の認識の構造と貧困原因の認知が経済的困難を抱える利用者・家族への援助に関する困難感や肯定的態度への影響を明らかにした。居宅介護支援専門員の貧困の原因に関する認識は、「社会的原因」「個人的原因」「運命的原因」の3因子構造であった。さらに、「社会的原因」に対する認知が高いほど困難感が増加し、「個人的原因」に対する認知が高いほど支援への肯定的態度が減少した。

(4) 介護保険制度の改定に関連して、要介護高齢者における家事援助の利用傾向が、「世帯類型」「性別」「収入」によって異なるか否かを、「長寿社会における中高年の暮らし方の調査」の1999年から2017年までのデータを利用し、分析した。インフォーマルとフォーマルの両方の家事援助の利用は2006年まで増加し、その後は徐々に減少したが、その割合は1999年よりも高いままであった。単独世帯の場合、インフォーマルとフォーマルの両方の家事援助の利用は2002年以降増加した。収入については有意な影響は見られなかった。

(5) 腎透析の導入前のライフコース上の経済的困窮の経験が、高齢透析患者の健康格差の要因となるか否かを分析した。ライフコース上の困窮の経験については、幼少期、青年期、中年期の3時期を設定した。ライフコース上の経済的困窮のモデルには、潜在効果、社会移動効果、経路効果、蓄積効果の4種類を用いた。健康指標には合併症数、日常生活動作、うつ症状の各指標を用いた。経路効果、社会移動効果、蓄積効果の各モデルは3種類すべての健康指標の格差を説明した。潜在効果モデルは日常生活動作のみ格差を説明した。

(6) 透析患者の食事療法への遵守の社会経済的地位（学歴と収入）による差異がなぜ生じるのか、その異なるメカニズムを社会心理的媒介要因の面から解明した。社会心理的媒介要因には、「自己効力感」「結果期待」「社会的支援」を位置付けた。学歴による食事用法の遵守度の差は「自己効力感」と「結果期待」によって、収入による食事用法の遵守度の差は、「社会的支援」によって説明された。

(7) 腎透析患者のスティグマの意識が健康、健康関連の指標に与える影響とその影響が「社会経済階層（学歴、収入）」「性」「日常生活動作」「糖尿病性腎症による透析導入の有無」によって異なるか否かを分析した。スティグマ意識がうつ症状、インフォーマルネットワーク、食事療法への遵守度に影響していた。さらに、「学歴」「性」「糖尿病性腎症による透析導入の有無」によ

てスティグマが健康や健康関連の指標に与える影響に差がみられた。

#### 6) 社会階層以外の社会的要因に関する研究成果

(1) パーソナリティが抑うつに及ぼす影響を、媒介要因として社会的ネットワークに着目して分析した。目的 1) で使用したデータ（東京都内の 2 自治体（世田谷区と墨田区）の 65 歳以上住民各 1,000 人ずつを対象とした調査）を用いて、抑うつ傾向を従属変数、日本語版 Ten item Personality Inventory (TIPI-J) によって測定したパーソナリティ（外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性）を独立変数、社会的ネットワーク（親しい親族数と友人数）を媒介変数とした、多重媒介分析を実施した。分析の結果、①外向性と協調性が高い者ほど抑うつ傾向が低かった。②外向性が高い者ほど親しい親族数と友人数が多く、協調性が高い者ほど親族数が多かった。③親族数と友人数が多い者ほど、抑うつ傾向が低かった。結論として、外向性と協調性というパーソナリティ特性が抑うつに及ぼす影響は、社会的ネットワークによって部分的に媒介されていた。

(2) 都市部で業務に従事する介護支援専門員の仕事満足度に関連する要因を分析した。目的 5) の東京都区部の居宅支援事業所に所属する介護支援専門員に対する調査データを用いて、個人的要因（年齢、経験年数、性別、経済状況）、労働条件（勤務形態・事業所設立主体、支援体制（相談相手、スーパービジョン）、職務関与意欲を取りあげた。分析の結果、①管理職や同僚との人間関係に対する満足度が高く、賃金や昇進の面で満足度が低かった。②職場のスーパービジョン（相談、指示、調整）と相談相手などの支援体制、ケアマネジメント意欲、自分自身の経済状況が仕事満足度に影響していた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Sugisawa, H., Shimizu, Y., Kumagai, T., Shishido, K., Koda, Y., Shinoda, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Influence of dialysis related stigma on health related indicators in Japanese patients undergoing hemodialysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Therapeutic Apheresis and Dialysis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1744-9987.13992	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sugisawa, H., Sugihara, Y., Kobayashi, E., Fukaya, T., Liang, J.	4. 巻 -
2. 論文標題 Trends in informal and formal home help use among older adults with disabilities in Japan: From 1999 to 2017	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Social Welfare	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijsw.12596	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柳沢志津子、杉澤秀博、原田謙、杉原陽子	4. 巻 -
2. 論文標題 都市在住高齢者の社会経済的地位と口腔健康を媒介する心理社会的要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.22-100	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sugisawa, H., Shimizu, Y., Kumagai, T., Shishido, K., Shinoda, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Influences of financial strains over the life course before initiating hemodialysis on health outcomes among older Japanese patients: A retrospective study in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Nephrology and Renovascular Disease	6. 最初と最後の頁 63-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/IJNRD.S352174	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Harada, K., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shinmei, M.	4. 巻 15
2. 論文標題 Mediators of life-course and late-life financial strain on late-life health in Japan: Based on a cross-sectional survey	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Multidisciplinary Healthcare	6. 最初と最後の頁 883-896
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/JMDH.S356760	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Shimizu, Y., Kumagai, T., Shinoda, T., Shishido, K., Koda, Y.	4. 巻 26
2. 論文標題 Discordance between hemodialysis patients' reports and their physicians' estimates of adherence to dietary restrictions in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Therapeutic Apheresis and Dialysis	6. 最初と最後の頁 1156-1165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1744-9987.13852	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Shinoda, T., Shimizu, Y., & Kumagai, T.	4. 巻 2021
2. 論文標題 Cognition and implementation of disaster preparedness among Japanese dialysis facilities.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Nephrology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2021/6691350	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Harada, K., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shinmei, M	4. 巻 40
2. 論文標題 Health, psychological, social and environmental mediators between socio-economic inequalities and participation in exercise among elderly Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ageing and Society	6. 最初と最後の頁 1594 - 1612
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0144686X1900014X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Harada, K., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shimmei, M.	4. 巻 35
2. 論文標題 Time perspectives as mediators of the associations between socio-economic status and health behaviours in older Japanese adults	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychology & Health	6. 最初と最後の頁 1000-1016
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08870446.2019.1686505	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Shinoda, T., Shimizu, Y., Kumagai, T., Sugisaki, H. & Sugihara, Y.	4. 巻 24
2. 論文標題 Caregiving for older adults requiring hemodialysis: A comparison study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Therapeutic Apheresis and Dialysis	6. 最初と最後の頁 423-430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1744-9987.13453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Sugihara, Y	4. 巻 43
2. 論文標題 Mediators and moderators of the association between living alone and psychological Distress among Japanese Older Adults	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Family & Community Health	6. 最初と最後の頁 313-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/FCH.0000000000000256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Harada, K., Sugihara, Y., Yanagisawa, S. Shimmei, M.	4. 巻 44
2. 論文標題 Social networks' health habits over life course and late-life health habits	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 American Journal of Health Behavior	6. 最初と最後の頁 100-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5993/AJHB.44.1.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Sugisawa, H., Sugihara, Y., Nakatani, Y.	4. 巻 40
2. 論文標題 Long-term care preference among Japanese older adults: differences by age, period and cohort	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ageing & Society	6. 最初と最後の頁 1309-1333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0144686X1800171X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Sugihara, Y., Kobayashi, E., Fukaya, T., Liang, J.	4. 巻 39
2. 論文標題 The influence of life course financial strains on the later-life health of the Japanese as assessed by four models based on different health indicators	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ageing and Society	6. 最初と最後の頁 2631-2652.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0144686X18000673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Shinoda, T., Shimizu, Y., Kumagai, T., Sugisaki, H.	4. 巻 2019
2. 論文標題 Psychosocial mediators between socioeconomic status and dietary restrictions among patients receiving hemodialysis in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Nephrology	6. 最初と最後の頁 9 pages
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2019/7647356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harada, K., Sugisawa, H., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shimmei, M.	4. 巻 89
2. 論文標題 Perceived age discrimination and job satisfaction among older employed men in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The International Journal of Aging and Human Development	6. 最初と最後の頁 294-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0091415018811100.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沢志津子、杉澤秀博、原田謙、杉原陽子	4. 巻 13
2. 論文標題 高齢者自身と同質的なメンバーで構成される地域組織への参加要因：高齢者と地域組織の特徴に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 応用老年学	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H., Harada, K., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shinmei, M.	4. 巻 なし
2. 論文標題 Health, psychological, social and environmental mediators between socio-economic inequalities and participation in exercise among elderly Japanese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ageing & Society	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0144686X1900014X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉澤秀博	4. 巻 40
2. 論文標題 高齢者における健康格差研究のResearch・クエスチョン：社会階層に着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沢志津子、高橋舞、杉澤秀博	4. 巻 (13)
2. 論文標題 「通いの場」を利用する高齢者のソーシャル・キャピタルが主観的Well-Beingに及ぼす影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 老年学雑誌	6. 最初と最後の頁 34-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉澤秀博	4. 巻 (782)
2. 論文標題 高齢者の職業生活の 20 年間の変化: 高齢者の雇用延長政策による影響はあるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央調査報	6. 最初と最後の頁 6857-6861
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugisawa, H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Psychosocial predictors of young male workers' discrimination against older workers in Japan: comparison of four models	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ageing and Society	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0144686X22000289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Harada, K., Sugisawa, H., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shimmei, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Big five personality traits, social networks, and depression among older adults in Japan: A multiple mediation analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The International Journal of Aging and Human Development	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00914150221109893	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Sugihara, Y.
2. 発表標題 The association between performing medical/nursing tasks at home for older adults and caregiver well-being: The moderation effect of support
3. 学会等名 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 杉原陽子
2. 発表標題 要介護認定者における介護保険サービスの未充足ニーズの状況と関連要因
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳沢志津子、高橋舞、杉澤秀博
2. 発表標題 「通いの場」に参加する高齢者の満足感とソーシャル・キャピタルとの関連
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田謙
2. 発表標題 「老年社会科学」はいま何を意識すべきなのか？：学際的研究を再考する
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉澤秀博、原田謙、杉原陽子、柳沢志津子、新名正弥
2. 発表標題 中高年男性による職場における年齢差別の評価に影響するミクロ・メゾ・マクロ要因
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉澤秀博, 清水由美子, 熊谷たまき
2. 発表標題 高齢透析患者の身体的・精神的健康に与える透析導入前のライフコース上の経済的困窮の影響
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳沢志津子, 杉澤秀博, 原田謙, 杉原陽子, 新名正弥
2. 発表標題 社会階層による高齢者の口腔健康格差の媒介要因：心理社会的要因に着目して
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉澤秀博, 原田謙, 杉原陽子, 柳沢志津子, 新名正弥
2. 発表標題 ライフコース上の経済的困窮が高齢期の健康に与える影響のメカニズム
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田謙, 杉澤秀博, 杉原陽子, 柳沢志津子, 新名正弥
2. 発表標題 高齢者のパーソナリティ、社会的ネットワークと精神的健康：媒介分析による検討
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉澤秀博、原田謙、杉原陽子、柳沢志津子、新名正弥
2. 発表標題 ライフコース上の社会経済階層の高齢期の健康に対する影響：若年・中年期および時期による差異
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉澤秀博
2. 発表標題 高齢者にとって住みよい社会的・物理的な環境とは何か；高齢者の生活環境を考える
3. 学会等名 日本応用老年学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sugisawa, H.
2. 発表標題 Socioeconomic status disparities in late-life health in Japan
3. 学会等名 Global Symposium on Ageing and Low Fertility（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉澤秀博、原田謙、杉原陽子
2. 発表標題 高齢者における時間的展望、社会階層、健康習慣の関連
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉澤秀博、柳沢志津子、原田謙、杉原陽子、新名正弥
2. 発表標題 中卒男性高齢者における運動習慣の未実施に至るプロセス
3. 学会等名 日本老年社会科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harada, K., Sugisawa, H., Sugihara, Y., Yanagisawa, S., Shimmei, M.
2. 発表標題 Job demands, coping resources, and job satisfaction among older employed men in Japan
3. 学会等名 The Gerontological Society of America (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳沢志津子、杉澤秀博、原田謙、杉原陽子、新名正弥
2. 発表標題 社会的不利の中で口腔保健行動を獲得・定着するプロセス
3. 学会等名 日本社会福祉学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 杉澤秀博、長田久雄、渡辺修一郎、中谷陽明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桜美林大学出版会	5. 総ページ数 318
3. 書名 老年学を学ぶ：高齢社会の学際的研究	

1. 著者名 原田 謙	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 195
3. 書名 「幸福な老い」と世代間関係：職場と地域におけるエイジズム調査分析	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>高齢者における健康の社会階層格差のメカニズムとその制御要因の解明  <a href="http://age-inequality.jp/">http://age-inequality.jp/</a>  透析医療研究会  <a href="http://touseki-iryuu.jp/">http://touseki-iryuu.jp/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	原田 謙  (Harada Ken)  (40405999)	実践女子大学・人間社会学部・教授   (32618)	
研究分担者	杉原 陽子  (Sugihara Yoko)  (80311405)	東京都立大学・都市環境科学研究科・教授   (22604)	
研究分担者	柳沢 志津子  (Yanagisawa Shizuko)  (10350927)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(歯学域)・講師   (16101)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新名 正弥  (Shinmei Masaya)  (70312288)	田園調布学園大学・人間福祉学部・准教授    (32720)	
研究分担者	北島 洋美  (Kitajima Hiromi)  (00614439)	日本体育大学・体育学部・教授    (32672)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関